

学校をより活性化するために

令和7年度

教職員による学校評価（自己評価）

生徒・保護者アンケート

— 学校評価システムを活用した学校経営 —



旭川龍谷高等学校

ASAHIKAWA RYUKOKU HIGH SCHOOL

学校評価システムを活用した学校経営

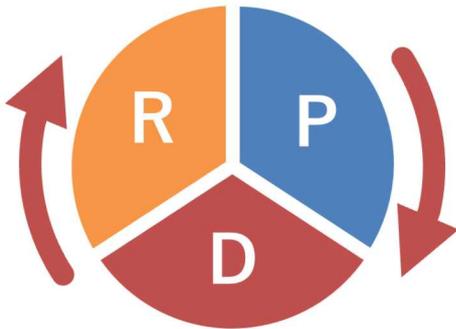
スピード感をもって、できることから、変化を恐れずに…

外部(第三者)評価

学校関係者評価

- 教職員による自己評価の検証
- 教職員との共通理解と協働

教職員による自己評価



- Plep … 準備する
- Do … 実行する
- Review … 多様な意見を統合し判断する

生徒アンケート
保護者アンケート
年度反省会議
各種調査結果等

- 改善に要する時間的コストを縮減する
- 課題解決の優先順位を明確にする
- 大胆な意見や提案を排除しない

校長

年度の重点目標

学校運営の重点

明示

参画

- 各分掌
- 各学年
- 各教科
- 各…

連携・協働

R7 教職員による自己評価



回答数47 回答率100%
2025, 12, 3 ~ 2024, 12, 10 実施

■ 目的

- (1) 「令和7年度学校経営の方針」で示した各領域の具体的な目標の達成状況等を自己評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。
- (2) 自己評価を行うに当たり、生徒・保護者アンケートを活用する。
- (3) 評価結果や課題等をホームページで公表することにより保護者などから理解を得、連携協力による学校づくりを進める。

評価項目(成果指標)		教職員から見た学校全体の評価				
		そう思う (%)	やや思う (%)	あまり思わない (%)	思わない (%)	評価平均値
■ めざす学校像 高い次元の文武両道を目指し夢が実現できる学校						1.0 4.0
1	知徳体にあたる「生きる力」を育む学校になっている。	14.9	59.6	23.4	2.1	2.9
2	一人ひとりの夢や目標を確実に実現できる学校になっている。	23.4	63.8	10.6	2.1	3.1
3	社会に役立つ人材を育てる学校になっている。	19.1	59.6	19.1	2.1	3.0
■ めざす生徒像 持続可能な社会の創り手となる生徒						1.0 4.0
4	「報恩感謝」の心を大事にする生徒に育っている。	12.8	61.7	21.3	4.3	2.8
5	学力の3要素を確実に身に付ける生徒に育っている。(①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)	4.3	51.1	40.4	4.3	2.6
6	自らの健康の増進と体力の向上に励む生徒に育っている。	32.6	56.5	8.7	2.2	3.2
■ めざす教師像 自校に誇りを持ち生徒のために自らも成長し続ける教師						1.0 4.0
7	教師集団の一員としての自覚をもって行動する教師になっている。	21.3	57.4	19.1	2.1	3.0
8	自らが創意工夫して常に高い教育を目指す教師になっている。	23.4	53.2	21.3	2.1	3.0
9	様々な困難を抱える生徒に共感的な支援ができる教師になっている。	23.4	61.7	10.6	4.3	3.0
■ 学校運営の重点						1.0 4.0
10	龍谷の強みを生かした教育を展開することができた。	8.7	67.4	21.7	2.2	2.8
11	「まごころある国際人」を育成する教育を展開することができた。	4.3	31.9	44.7	19.1	2.2
12	「豊かな未来社会の創成に寄与できる人材」を育成するカリキュラムを展開することができた。	4.3	48.9	42.6	4.3	2.5
13	「龍谷の目指す教育」を実現する為に必要な教職員の資質向上の取組を強化することができた。	8.7	50.0	37.0	4.3	2.6
14	「2コース制6フィールド」の構築に向けた学習内容の研究と教職員研修を充実させることができた。	4.3	44.7	42.6	8.5	2.4
15	「新しい龍谷」の多様性を推進することができた。	6.5	47.8	39.1	6.5	2.5

I めざす学校像、生徒像、教師像について

本校のめざす学校像は「高い次元の文武両道を目指し、夢が実現できる学校」であり、報恩感謝の心、学力、体力をバランスよく育む教育課程の充実に努めてきました。また、そのためには教職員の協働体制の確立及び学校経営に積極的に参画する意欲の高まりが欠かせませんが、今年度の学校評価ではおおむね高い評価となっています。教職員がチームとして生徒に寄り添いチームとして生徒の目標を支えていく営みは、今後も変わることはありません。本校がさらに高い次元に到達するために、成果と課題を次のとおり示します。

新たな取組・成果 … □ 今後の課題・検討事項 … ■	
□	<p>本校のめざす学校像3項目は、キャリア教育の基礎的・汎用的能力（①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力）の育成に直結している。本校では、今年度新たに次世代型キャリア教育コンテンツとして「ENAGEED」を導入し、総合的な探求の時間を中心に活用を図っている。今後、効果の検証を待つ必要はあるが、本校の目標に近づくための一つのアプローチとして評価される。</p>
□	<p>朝の仏参において、生徒の日常の学校生活を話材とした（生活の心得、努力への賞賛、安心・安全な学校、心の豊かさなど）語りかけが挿入された。「報恩感謝の心」を育む一環として意義ある取組となっている。</p>
□	<p>学習の評価については、教職員の共通理解が欠かせない。その精度をより高めるための校内研修（上川教育局より講師派遣）が行われたことは意義ある取組であった。教師は常に知識とスキルをアップデートする責務があり、それをやめれば教師ではなくなる。今後も校内研修は必要であり、多忙化を招かない形で着実に実施したい。</p>
□	<p>生徒の活動の成果や大会、コンクールなどの結果を積極的に認め、励ます取組が行われている。単にWebサイトでお知らせという形だけではなく、職員室前に成果を掲示したり、サイネージで生徒に伝えたりすることが、学校全体の活性化に結びついており、評価項目2にそれが表れる結果となった。</p>
■	<p>学力に関する評価については課題が見られる。シラバスを明示し、授業進度にも問題はないが、教職員の多忙化（大会引率や生徒募集活動などを含む出張・外勤など）により、ゆとりのない授業展開を余儀なくされる場合がある。そのため、授業の形態も一斉授業に偏りがちになり、個別に課題解決に取り組む時間や協働的に学ぶ時間を確保しにくい。授業で十分でなかった部分は授業で取り返すのが原則ではあるが、生徒それぞれの学習意欲に大きな差がある現実を含めて考えると原則だけでは解決が難しい。</p> <p>これらは本校だけの課題ではないにせよ、近年の大学入試に対応していくためにも、次のことについて検討が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本校で行っている習熟度別授業、講習、補習、放課後学習会、自習室の運営、職員室前の質問コーナーの設置、スタディサプリの活用など、その在り方を再検討し、授業を補完しながらより効果的な運用がなされるよう内容検討を行う。 2 生徒を主語とした授業（教師が何を教えたかではなく、生徒がどんな学び方でどんな力を獲得したのか）などをテーマに研修を通じて授業の質的改善を図る。 3 本校の特性を十分に踏まえつつ、大会引率や生徒募集等で学校を不在とする教員の人数や回数に一定のルールを設定する。

II 学校運営の重点について

6つの評価項目について評価そのものは決して悪くはありませんが、全体的に「やり切れた、達成できた」という傾向にはなく、やや力強さに欠ける内容になっています。特に評価項目11と14にその傾向が見られます、成果と課題を次のとおり示します。

新たな取組・成果 … □ 今後の課題・検討事項 … ■	
□	<p>「龍谷の強み」は何か。それはめざす学校像「高い次元の文武両道」にまっすぐ向かう生徒の姿そのものである。また「面倒見のよい龍谷」という表現もあるが、教職員がチームとして生徒に寄り添いチームとして生徒の目標を支えてきた自信が評価項目10にも表れている。</p> <p>部活動においては、これまで花形とされてきた競技だけでなく、全道、全国に進出して大きな飛躍を遂げた個人・チームがある。また、就職率はもちろんのこと進学の実績も堅調である。至らない部分はあるが、改善により教育効果を最大限に発揮する営みが今後も継続されなくてはならない。</p>
■	<p>「まごころある国際人の育成」といえば、本校においてはICR（国際交流）、IAC（ボランティア）の活動が想起される。かつては本校の特色ある取組の一つとして、多くの実績を積み上げていたが、近年は加入する生徒も減少しており、校内に浸透するよう力強い活動になりにくい状況もある。</p> <p>達成するにはあまりにも抽象的で難易度の高い重点目標であるが、今後もこの項目を重点とするならば、次の改善策を検討したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ICR、IACの活動の意義を再定義するとともに、ESDや国際理解教育に精通する専門性の高い教員配置を行う。 2 本校独自の海外留学制度を設定するなど、魅力ある事業の立ち上げを検討する。 <p>活動に参加する生徒が増え、その取組が本校の教育活動全体に浸透するようになったとき、この重点目標の評価はよりよい方向に向かうと考えられる。</p>
■	<p>特進コースにはこれまでのノウハウが十分に蓄積されているが、その一方でキャリアデザインコースにおいては、まさに原野を切り拓くようなここ数年であったと思われる。2コース制6フィールドの体制がようやく定着し、一定のノウハウや他の教育機関との提携関係が確立された今、教職員はより高い次元での指導を追求しており、それが良い意味で評価項目14に表れている。改善というより今後の方略として次の視点を持ちたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本校のパンフレットで示されているフィールドのカリキュラム構成や教科の選択範囲、職業・進路選択への結びつきなどについて、生徒募集の説明会でよりわかりやすく説明すべきである。 2 特進コースが少人数化している現実をとらえ、「今どき」の中学生のニーズを捉えたカリキュラム構成を検討する必要がある。検討の際、土曜日授業や平日7時間授業という根本的な部分の検討も排除しない。 <p>「龍谷の強み」「新しい龍谷の多様性」という言葉が重点目標となっているが、龍谷らしさを追求するあまり、硬直化してガラパゴス化することがあってはならない。柔軟で透明性のある2コース制6フィールドでありたい。</p>

R7 生徒アンケートの集計結果

回答数 568 回答率84.7%
2025, 12, 3 実施



評価項目		そう思う (%)	やや思う (%)	あまり思わない (%)	思わない (%)	評価平均値 1.0.....4.0
学習や進路などについて	1 先生方は、「わかる授業」や「学力向上」のために熱心に指導してくれる。	49.7	40.4	7.8	2.1	3.4
	2 学校のネット環境と、それを活用した学習活動は充実している。	48.6	36.4	12.0	3.0	3.3
	3 私は、学校の授業に意欲的に取り組んでいる。	49.6	39.8	8.8	1.8	3.4
	4 私は、授業や講習などを通して学力が身についてきた。	41.1	45.5	11.5	1.9	3.3
	5 私は、将来の進路について目標を持って高校生活を送っている。	57.3	30.3	10.4	1.9	3.4
	6 学校は、進路に向けて、進学講習や検定講習などが充実している。	51.4	37.2	9.0	2.3	3.4
学校生活などについて	7 私は、服装・頭髪・授業規律等、学校の決まりを守っている。	85.5	12.9	0.9	0.9	3.8
	8 学校は、生徒一人一人を大切に、安心して生活できる場となっている。	47.7	39.9	8.2	4.3	3.3
	9 先生方は、悩みや相談に親身になって対応してくれる。	53.7	35.9	7.1	3.4	3.4
	10 学校は、いのちの大切さや社会のルールについて指導してくれる。	60.1	31.6	5.6	2.6	3.5
	11 学校祭など私たちが主体となって行う行事や日常の生徒会活動は充実している。	68.0	27.3	3.4	1.4	3.6
	12 私は、学校生活を楽しく感じている。	64.5	25.2	6.7	3.6	3.5

R7 保護者アンケートの集計結果

回答数 381 回答率 58.1%
2025, 11, 28 ~ 2025, 12, 5 実施



評価項目		そう思う (%)	やや思う (%)	あまり思わない (%)	思わない (%)	評価平均値 1.....4
学習指導	1 学校は、生徒の状況に応じて丁寧かつ熱心に指導してくれる。	36.2	52.8	9.7	1.3	3.2
	2 お子様は、授業や講習などを通して学力が身についてきた。	24.4	51.4	21.8	2.4	3.0
生徒指導	3 学校は、生徒に規律ある姿勢や態度を育てる努力をしている。	32.2	54.9	10.8	2.1	3.2
	4 学校は、生徒一人一人を大切に、安心して生活できる場となっている。	28.2	58.6	10.6	2.6	3.1
進路指導	5 学校は、生徒一人一人に応じた進路指導を行っている。	32.7	53.2	12.2	1.9	3.2
	6 学校は、各種講習等、進学・就職指導の充実を図っている。	33.2	54.3	11.2	1.3	3.2
学連校携との	7 学校は、各家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている。	31.1	45.3	20.3	3.4	3.0
	8 HR担任や部活動顧問などとの連携がよくとれている。	25.9	51.5	19.8	2.9	3.0
学校生活	9 お子様は、学校の決まりをよく守っている。	43.8	50.9	5.0	0.9	3.4
	10 お子様は、楽しく充実した学校生活を送っている。	50.9	40.4	6.6	2.1	3.4

Ⅲ 生徒、保護者アンケートについて

両アンケートの結果は、教職員が自己評価した結果に比べてはるかに良好なものとなっています。教職員は、生徒、保護者ともに本校の教育活動への期待も含めて全般的に信頼感を抱いていることを受け止め、今後も精進し、自信をもって教育活動を推進していかなければなりません。また、全体的な傾向が良好であることに慢心せず、個々のトラブルや、見逃しがちな生徒の葛藤にしっかりと向き合う姿勢をもたなくてはなりません。自由記述の欄にも厳しい指摘や要望が数多く寄せられており、短期的に、または中長期的に改善を要する視点が示されています。

自由記述の主な内容	生徒アンケート	保護者アンケート
学習指導・教育課程にかかわる内容	14件	6件
生徒指導にかかわる内容	13件	5件
学校・家庭間の連携にかかわる内容		12件
ICTにかかわる内容	2件	
通学や学校生活の環境にかかわる内容	22件	5件
部活動にかかわる内容	3件	3件
学校、教員に対する応援、感謝		6件
その他	3件	3件

生徒アンケートでは、廊下の暖房や自動販売機の内容など、施設・設備面に対する要望が多く見られました。また、身だしなみや授業中の私語等に対する指導の強化を訴える内容もあり、より良い学校生活を送りたいという当然の思いを教職員はしっかり受け止める必要があります。

保護者アンケートにおいては、「学校のことがよくわからない」というご意見が多く寄せられました。本校では、WebやSNSを通じて学校でのイベントや部活動の成果を積極的に発信しており、連絡にはBLENDの機能を最大限に活用しています。しかし、未だ十分でないところがあるかもしれません。また、本校から発行される通信には「旭龍新聞」「学年通信」「特進通信」「宗教教育部通信」があり、さらには「保護者の会通信」や「生徒会通信」もありますが、内容の重複などが多く見られることも事実です。その意味では、発行の量より質が問われているとも言えるでしょう。各通信が伝える内容の「住み分け」が必要かもしれません。

両アンケートの結果を参考に教職員の自己評価の結果を再度見つめ直し、学校関係者からのご意見もいただきながら、次年度の学校経営に活かしていきます。